

10月の園だより 回覧

令和7年9月30日（火） 羽茂こども園 副園長 吉田 歩

うだるような暑さもようやく落ち着き、秋の訪れを感じる季節となりました。朝夕の気温には肌寒さを感じるほどで、寒暖差が大きい今日この頃です。体調管理の難しい時期ですが、生活リズムを整え、元気に過ごしていきたいですね。

今後も雨が降ることも想定されますが、レインコートをご用意いただいたことで、降雨に「やったー！」と喜び子ども達の声が聞こえ、何でも楽しめる環境を整えていくことをこれからも考えていきたいと思います。

10月の行事予定

日	曜日	予定	対象クラス
1日	水	サツマイモ掘り	とき組・かわせみ組・きじ組
3日	金	行事食	全園児
11日	土	佐渡市美術展覧会(市展)（～10月15日）	（とき組作品展示）
13日	月	スポーツの日	
15日	水	内科検診（12時30分～）	全園児
16日	木	誕生日給食	つばめ組 / 全園児
17日	金	以上児親子遠足	とき組・かわせみ組・きじ組
20日	月	保育実習（～10月31日）	全園児
23日	木	歯科検診（9時30分～）	全園児
31日	金	布団の手入れ（15時以降） ※1ヶ月に1回に変更になります。	全園児

※避難訓練（不審者侵入を想定）も行います。

※身体測定の日程につきましては、アプリ コドモンのカレンダーよりご確認ください。

11月の主な行事予定・・・11日(火)午前 食育教室(とき組)、午後 就学時健康診断(とき組)

作品展示について

佐渡市美術展覧会(市展)にとき組の子ども達の絵画作品が展示されます。経験したことをクレヨンや絵の具等を用いて表現する楽しさを味わいながら描き上げた作品ばかりです。ぜひ、ご家族で足を運んでいただき、芸術の秋を楽しんでみてはいかがでしょうか。

<市展> とき組作品展示

日時：10月11日(土)～10月15日(水) 9時～19時（最終日は13時まで）

場所：佐渡市総合体育館（ヒルトップアリーナ佐渡）



保育実習

下記の日程で、専門学生が保育実習に来園します。たくさん遊んで、楽しみたいと思います。

<保育実習>

日程：10月20日～10月31日

新潟こども保育カレッジ1年生

10月うまれの友だちを紹介します

☆ときぐみ（6さい）
なかはら かこ さん



おたんじょうび
おめでとう！

保育園留学園児の紹介

先日留学で来ていた3歳児の子は、初日から、自ら保育室にある玩具等を見て遊び始め、落ち着いて過ごしていました。遊びを通して自然と友だちとの関わりも生まれ、笑い合い、仲を深めていく姿が印象的でした。

今度の留学は初の2週間滞在です。どのような関わりが生まれるのか、今から楽しみです。

10月27日～
11月7日
4歳児1名

お礼

9月20日(土)の第2回環境整備では、お忙しいところご協力いただき、ありがとうございました。

かわせみ組・あひる組・ひよこ組の保護者の皆さまのおかげで、園庭や中庭は見違えるほどきれいになり、秋の虫探しや秋冬の野菜の栽培に夢中になっている子ども達です。本部役員の皆さまをはじめ、ご参加いただいた保護者の皆さま、本当にありがとうございました。

9月22日には、延期となっていた夕涼み会が行われました。夏祭りのようなわくわくする雰囲気の中、子ども達をはじめ、来た人たちみんなで楽しむことができました。保護者会役員の皆さま、素敵な夕涼み会を開催していただき、ありがとうございました。



はもちっこまつり

先日、羽茂小学校より招待され、4、5歳児が はもちっこまつりに参加してきました。クイズや迷路などに挑戦したりして、とても楽しそうな子ども達でした。

ひとつ、嬉しい出来事がありました。年長児のAさんが女子トイレに行きたくなったのですが、私(吉田)は中まで入ることはできず少し迷いました。その時に、4年生の児童Bさんが通りかかったので、Aさんをトイレまで案内してほしいと声をかけました。Bさんはトイレの中まで付き添い、Aさんが私の所へ戻るまで優しく見守っていました。Bさんの頼もしさと優しさを強く感じ、とても嬉しく思いました。

このような関わりも小学校とのつながりの一つであり、これからも自然と助け合える関係が続いていくといいなと思います。



未満児親子遠足・祖父母保育参観

9月は、祖父母の方を迎えての保育参観や未満児クラスの親子遠足と、行事が続きました。子ども達にとっては、嬉しい出来事続きで、とても満足そうな表情が印象的でした。のんびりじっくりと関わり合うその姿はかけがえのないものですね。ご多用のところ、ご参加いただきありがとうございました。



裏面に、園長「はもちのほいく」があります。こちらも合わせてご覧ください。



「はもちのほいく」 No.6

令和 7 年 9 月 30 日
園長 石木 むつみ

今日は、9月27日。清々しい風が吹き、まさに秋晴れ！という絶好の気候の中、南佐渡中学校の体育祭が開催されています。中学校よりご案内をいただいたので、私も午前の部を観覧させていただき、今、園に戻り、「はもちのほいく」の執筆に取り掛かったところです。

体育祭では、団長として団員をまとめるべく、大きな声を出しながら中心となって動く生徒。リレーのアンカーを務め、1位を目指して力走する生徒。放送係として、心を打つようなナレーションで熱く伝える生徒。そして、このように前に出て目立つわけではないけれど、きっと見ている私たちが気づかないところで、この体育祭のために自分の持っている力を出し、支えた生徒もいたのではないのでしょうか。形は様々ですが、自分なりのやり方で自分を表現しようとするその思いがじんわりと伝わり、胸が熱くなる体育祭でした。

さて、羽茂こども園の子ども達が中学生になった頃には、いったいどんな姿を見せてくれるのでしょうか。南佐渡中学校の生徒の姿と重ね合わせながら、あれこれと思い巡らせています。

園内研修を通して

絵本の奥深さを知る

羽茂こども園では、保護者のみなさまのご協力のもと、月刊絵本の毎日読みに取り組み、5年が経とうとしています。子ども達は絵本の楽しさを知ったり、絵本の内容を遊びの中に取り入れたりして、子ども達の身近なところに絵本が息づいていると感じています。私たち職員にとっても、この毎日読みを続けることで、絵本への思いがずいぶん変わってきたことを実感しています。

そこで、絵本についての知見をさらに深めていきたいとの思いから、9月3日に北新越こどものとも社の菅沢太一氏を講師として招き、絵本についての園内研修を行いました。

園内研修の冒頭、講師の菅沢氏は「絵本は読み合うもの」であることを提言されました。今まで保育の世界では「絵本の読み聞かせ」という言葉で表現されることが多く、どちらかというと、「大人が読み、子ども達が聞く」といった一方通行のイメージがあったように思います。しかし、菅沢氏は「一方的に話すだけなら保育の専門性がなくともできる。子どもからの働きかけを踏まえ、読み合うことが大切」と話されます。つまり、絵本は「大人が子どもの反応を受け止めながら読み合うものである」ということです。

読み合うことで、もたらされる効果は、次の4つです。

- 1, 「心地よい語りかけ」と「まなざしの交換」の繰り返し→自分が好きになる（愛着形成・基本的信頼関係）
- 2, 気持ちを通わせたり、分かち合ったりできるよろこび→共有体験と響き合い（自己肯定感・心を育む）
- 3, 頼れる同伴者がいることで安心して物語の世界へと入れる→物語を体験する（感情体験・自分と世界を結ぶ）
- 4, 心のこもった言葉を聞き、楽しさ、心地よさを感じる→ことばの獲得（コミュニケーションの基礎・考える力）

絵本は「大人が子どもと一緒に読む」ものであるということ。また、絵本は子どもにとって「楽しみ」であり、決して文字やしつけなどを教えるものではないと、続けます。上記の通り、大人と一緒に読むことで、愛着が形成されたり、自己肯定感が高まるなど、心が育ったり、言葉を獲得したりするのだと、菅沢氏は話されました。



今日の1枚

雨の日も傘を持って出かけたり、レインコートを着て遊んだりする子ども達。たくさん経験を通して心を耕してほしいと願います。



菅沢氏の絵本の読み合いを体験する職員の様子

この研修会を通して、職員は様々なことを感じたようです。ここで少し紹介します。



A 保育者の感想

菅沢さんの絵本の実演は、穏やかで静かな声が耳に心地よく、適度な間合いと速さで物語の世界に引き込まれていき、絵本の登場人物や動物達が頭の中で動いているような感覚になりました。聞かせようとして読んでいるのではなく、この絵本が好きだから、あなたにも楽しんでもらいたいという思いで読んでいることが伝わってきました。クラスの子ども達は、同じ絵本を何度も読んでと求めることもあり、「えー、またなの？」と心の中で思うことがありました。でも、この絵本を自分だけに読んでほしい気持ちからのものであるから求めていると大切に受け止め、絵本の世界に入っていけるよう、穏やかな声を意識して子どもと一緒に絵本の世界を楽しもうと思います。



B 保育者の感想

最初に菅沢さんが『よくきたね』の絵本を読み聞かせしていたのだが、聞き手を見ながら、ゆっくり優しい声で読んでおり、温かい気持ちになった。絵本に対しての思いが読み方から伝わるのだと感じた。

私は元々、絵本を読み聞かせすることが苦手だったが、月刊絵本の毎日読みを通して、絵本を読むことが少しずつ好きになっていった。そんな中、子ども達がどうやったら絵本と向き合ってくれるかなと思い、絵本を読んだ後にクイズを出したり、こちらから感想を聞いたりしていた。だが、研修を聞く中で“読後の余韻を大切に”との菅沢さんの言葉を聞いて反省した。子ども達に聞いてほしいとの思いが強くなり、自分自身が絵本と向き合っていなかったのだなぁと感じた。まずは自分がその絵本を好きになる所から始めていかなければとも感じた。来月の絵本は、下読みを何度もしていき、自分自身が絵本と向き合ってから子ども達に読み聞かせをしていきたいと思う。

月刊絵本の毎日読みを始めて5年経った私たち職員も、今回の研修を受けて、今まで以上に絵本の持っている力に気づき、大切に絵本を子ども達に届けていきたいと感じることができました。そして、保護者の方に絵本の魅力に気づいてほしいと強く感じた職員も多くいました。



C 保育者の感想

子ども達が絵本と出会い、面白いと感じる瞬間が園や家庭でたくさんあってほしいと思う。そのために私達保育者ができることは何があるだろうかと考えると、絵本の貸し出しや共有の絵本コーナーの設置など、可能なことが多いと思う。しかし、何よりも保育者自身が絵本を面白い、すごいと思える感覚を養っていくことが大切だと考える。絵本の貸し出しや園共有の絵本コーナーの設置なども今後実施していくことで、子ども達が家庭で絵本に触れる機会が増えたり、保護者自身が絵本と出会っていったりすることも期待して、ぜひ実践していきたい。



各クラスにはくつろいだ気持ちで絵本を手にとることができる絵本コーナーを設けています。

「絵本は子ども達が自分で読んでいるから、もう大人が読まなくても大丈夫」といった声を聞くことがあります。しかし、冒頭でもお伝えしたように、「読み合うこと（大人に読んでもらうこと）」で、子ども達は生きていくために必要な力を獲得していきます。YouTube や SNS など情報が氾濫し、検索すればすべての正解がわかってしまうような今の世の中だからこそ、生きる根っこをつくるこの乳幼児期には、物語を体験したり、想像を膨らませたり、答えのないことを楽しむ経験が大切であると思うのです。絵本を読み合うことから、生きる力の基礎が培われていくことを、是非、保護者のみなさまと共有していきたいと思います。

引き続き、月刊絵本の毎日読みを通して、「絵本を読み合う」環境作りを大切にしていきたいと感じることができた園内研修となりました。



祖父母参観の一コマ。おじいさんと絵本を読み合っています。自然と近寄る姿も素敵です。